

「慢性看護と櫻田耕司さんのイラスト」

昨日（8日）の雨が残って午前中は曇りでしたが、昼ごろから晴れてきました。

第12回日本慢性看護学会学術集会のポスターを作成するときに、多くの学会のポスターを参考にさせて頂きました。素敵なポスターが多かったです。慢性看護を表現できるものがないかと考えていました。

日本慢性看護学会では臨床家が学術集会長になるのは初めてとのことであり、私自身も慢性疾患看護専門看護師（CNS）であるため、仲間のCNSや慢性看護に携わる看護師の皆さんの実践も表現したいと思いました。

そこで、以前、慢性疾患看護CNSの皆さんと一緒に出版した『進化する慢性病看護』（2007,看護の科学社）の表紙を飾っていただいた櫻田耕司さんに本学術集会のイラストをお願いすることにしました。

『進化する慢性病看護』に掲載されている実践内容をご存知であることも大切な決め手でした。

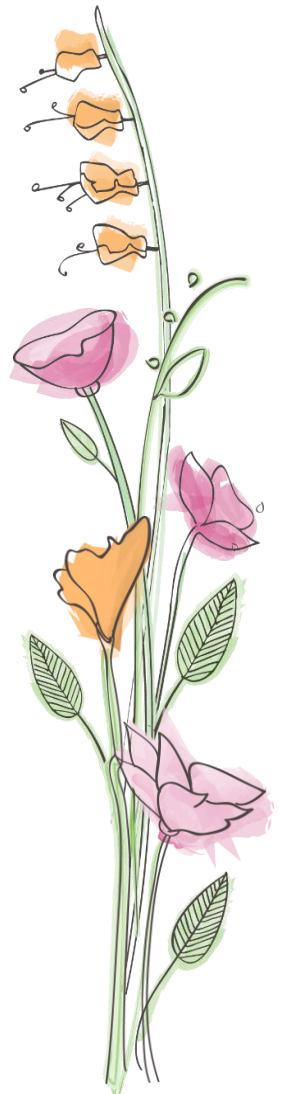
コンセプトとして慢性病看護の大切にしている<患者さんとともにある>や、その道のりは長く続いていくことを表現してほしいとお願いしました。そして出来上がったのが、このHPのトップページを飾っているイラストです。

本来はイラストについての説明はなされないと思うのですが、無理を承知でイラストの意味（解釈）を書いて頂きました。細やかな表現をしてくださっています。ポスターの後面に掲載させていただきました。ぜひ、皆さんにご覧いただきたく、再掲させていただきます。

ちなみに、HPの『学会の見どころ』の動画のギター演奏（曲名 夏故郷）と作曲も櫻田さんです。動画の作成は看護実践の科学社の濱崎浩一さんです。



2018年1月8日 東めぐみ



ポスターの説明

<樹と鳥について>

- ・ 樹のイメージは、屋久島の縄文杉のような長い長い時間を生き抜く生命力もイメージし、青葉、若葉は慢性病看護を引き継いでいく次世代の若者のイメージを込めました。
- ・ 鳥は、航海の先に安らぎの大地（希望）があることを知らせるオリーブの葉をくわえた鳩をモチーフにしました。鳥の羽に描き込みました太陽の光も、薄明光線（雲の隙間から太陽の光が放射状の帯になる気象現象）です。
- ・ 薄明光線は光の梯子を見て、自分たちの子孫が偉大な民族になることを願うという逸話があり、慢性病看護を学び引き継いでいく次世代の若者が人としても、素晴らし看護師に成長してほしいという希望、育てる責任をイメージしました。
- ・ 鳥の羽の構図は、長く続く病との共存、それを支える看護、その二つ共に覚悟を決めて歩いていく長い時間を表現するため、春から冬そして再び春へと続くルフラン（円環）の構図にしました。

<二人の人について>

- ・ 人物についてですが、患者さんと看護師さんが手を握り合っているのはイメージそのままなのですが、患者さんの右手は、自分自らを守り慈しみ病と向き合うというイメージです。
看護師さんの右手のイメージは、看護への謙虚さ、看護師としての自分自身への自問自答を繰り返し、患者さんと共に自分も成長していくというイメージで、あえて強い意志を表す握り拳にはせず、拳を握る前の状態で描きました。

<イラスト作成に込めた一番の思い>

このイラスト（ポスター）を見た患者さん、看護師さん、一般の方々が、すこしでもゆっくりとした安らぎと希望の気持ちになって頂けることが自分の願いです。

イラストレーター 櫻田耕司

